

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社 ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホームゆうしゅん（2Fユニット）		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	平成28年11月5日	評価結果市町村受理日	平成29年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成28年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保湾を眼下に見下ろす風光明媚な立地で豊かな自然のもと、四季の変化を感じながら「入居者様全員が幸せに過ごせますように」を理念に掲げ日々、ご利用者様の意志を尊重した支援に努めている。常に自立支援を念頭におき、残存機能を活かした介護にあたることで、認知症の進行防止及び身体の機能維持に努めている。日課においては、基本的な1日の流れはあるが利用者様個々の意向に応じ、柔軟に対応している。レクリエーションでは利用者様、職員が共に参加する事で楽しく過ごして頂けるよう努めている。又、食事には、最も力を注いでおり、利用者様の好みや嚥下状態を考慮しつつ常に栄養バランスや旬の食材を提供し食の楽しみを感じて頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「入居者全員がしあわせにお過ごしになられますようにご支援します。」との理念掲げ、特に入居者の意思の尊重を大切にして個別支援に取り組んでいる。最近、ランチ外出として一人ひとりの希望を聞き取り、近隣のレストランで食事を楽しむ取組みを始めている。運営推進会議での、事故及びヒヤリハット事例について情報を積極的に開示する姿勢や、家族の来所時に介護記録を提示し、丁寧な説明を行っていることに、家族から厚い信頼が寄せられている。さらに、事業所の代表者が医師であるため、医療連携体制が取られていることも事業所の強みと言える。食事には特に力を入れており、職員が旬の食材で作るバランスの取れた家庭料理は、利用者の楽しみとなっている。入居者の人格を尊重したケアが行われており、家族との厚い信頼関係のもと、日々支援に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者、スタッフの集うリビングに理念を掲げ理念に基づき日々、入居者様の幸せとは何かを念頭におき支援を行うよう努めている。	理念である「入居者全員がしあわせにお過ごしになられますようにご支援します。」を事務所やリビングに掲げ、日々入居者の幸せを意識しながら、実践に繋げている。利用者への接し方について、人生の先輩として人格を尊重して、優しく語りかけている様子に理念が浸透していることが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の総会や公会堂掃除等に参加し、地域の構成員として役割を果たし交流を深める様努めている。年1回地域向けのホーム便りを発行している。	自治会に加入し、総会へ出席したり、清掃活動を行っている。公民館での学習会へ職員が参加し、防犯対策の情報を得ており、地域の一員として、交流を行っている。保育園やボランティアの訪問の他、近隣より果物等の差し入れがあり、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談、お問い合わせについては、自治会長や民生委員様方を通して助言、アドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の定期的な会議を開催し、施設の様報告を行うと共に出席者との意見交換会や要望質問を伺い情報収集に努めサービス向上に活かしている。	年6回、規程の参加者で開催し、入居者の状況や活動報告などの後、意見交換を行っている。事故報告やヒヤリハット報告の他、利用者のご意見箱に寄せた要望や近隣から寄せられた苦情も全て公開している。家族には、議事録を毎回郵送して、共有化を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの方に出席して頂き、アドバイスを受けている。また、必要に応じて自治体の相談窓口へ出向いている。	申請や手続きには、支所の窓口に出向いている。行政に向けての相談や問い合わせは、質問票を使用してファックスで行う他、骨折等の事故報告を行っている。市主催の研修会へ職員が交代で参加したり、包括支援センターに不明点を質問する等、双方向で協力体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が勉強会や研修などを通して、身体拘束を理解し身体拘束のないケアに取り組んでいる。	外部研修や内部合同勉強会において、全職員が身体拘束の具体例を認識している。言葉での制止などにも気を配り、その場で注意し合っている。入居者と接する際には、優しい語り掛けを意識し、日中、玄関の施錠も無く、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、その後内部報告会を開催し職員全員が利用者様の人権を尊重し虐待のない支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解を深める為研修に参加している。又、成年後見等の制度が必要な利用者については、制度の説明や自治体や民間の機関を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族、利用者を含めわかりやすく丁寧な説明を心掛けおり、納得された上で同意を得ている。又、契約内容の改訂時には文章、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族、利用者とのコミュニケーションを図る様心掛けており、ご意見や要望を気軽に話して頂けるよう努めている。改善点は職員会議で討議し、改善に勤めている。	家族会があり、年1回食事やゲームなど交流し楽しんでおり、事業所からの連絡も行っている。家族も参加する遠足の行先は、前もって希望を聞いて決めている。毎月、ホーム便りを送付する他、年に一度、一人ひとりに手紙を書いており、家族とのコミュニケーションを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議等で機会を設けている。	介護に関する問題や備品の購入の希望については、職員が代表に直接話をしており、日頃から要望や、意見を伝えやすい関係を築いている。年間行事では、職員間で担当を決めて実施しており、運営に参画する意識を高めている。シフトについては、個人の希望を優先して決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境については基準確保が現状では一杯で余裕がなくなかなか困難。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には可能な際出席を促し、発表して頂く様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流に関しては、出来るだけ機会があれば参加を進めているが実践は充分ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	入所される前の事前面談にて、生活歴など必要な情報を得て利用者個々との対話で少しずつ信頼関係を築き、心身状況の把握理解に努め傾聴の態度で接するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前の事前面談で、ご家族のニーズや悩み事を把握し、施設での対応、方針について話し合い不安解消に努め、安心してご利用いただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族とサービス導入前に十分な話し合いを行った上でニーズに応じたサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であることを念頭に季節の行事実施の際には風習を教えて頂いたり、意見を伺う等、共により良い生活を送れるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者様の変化に気を配り施設での様子をありのままご家族様に伝え、情報の共有や支援の方向性をご家族の意向、要望を聴き共に支え合い支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域に住まれる馴染みの知人の面会がある事により交流が継続しており、又、関係が途切れない様支援に努めている。	家族や知人の面会の他、遠方の家族からは電話がある。年末には、年賀状を出す支援を行っている。毎月家族と墓参りに行く入居者がいる他、仏壇がある入居者の居室には、毎月寺から訪問がある。行きつけの理容店がある入居者もいて、それぞれに馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集い、利用者同士で昔話や出身地について話されたりスタッフがレクリエーションを計画し交流の機会を設け孤立なくコミュニケーションを図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も他施設や医療機関への面会やご家族との情報交換を行うなど、契約終了後もこれまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族へ要望や意向を伺い日々の生活での行動や言動、表情から本人の思いを汲み取り、その人らしく生活できられる様支援している。	職員は本人と入浴時等の1対1になる機会に、要望を聞き取っており、難聴の利用者には耳元で話し掛けている。内容は介護支援記録に詳細に記入し、職員間で共有している。一日の過ごし方は本人の意思を尊重している。また入居者の要望に沿った飲食店へ行く「ランチ外出」を行っており、入居者の思いに沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面談にて、生活歴やこれまで歩んでこられた経過の把握に努めている。入居後も本人・ご家族との会話の中から新たな情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し日々体調、行動、表情、言動を常に観察している。又、毎日の情報交換や月1回の職員会議で現状把握に努め、個別のサービス提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族の面会時に要望や意向等の情報収集を行い、合同カンファレンスを実施し必要に応じて変更訂正を行っている。	入居開始時のアセスメント時に、生活歴の他、本人にとって嬉しい事や悲しい事を聞き取り、職員間で共有している。家族の同意を得て、計画を作成後「実施表」へ項目毎に記録し、毎月のモニタリングへと繋がっている。家族には、介護記録を開示し、要望はないか必ず聞き取っている。入院した場合は、その都度計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランサービス実施表や実施状況又、食事量、生活状況を記録し職員間で情報共有を行っている。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態やご家族の意向に配慮しながら、状況や要望に応じて臨機応変に対応し、ご本人の満足に繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に、訪問美容のサービスを受けている。運営推進会議時、情報を得ながら地域資源を活用した支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療を受ける体制が出来ている。訪問時は相談やアドバイスを頂き、また、希望される医療機関へ受診が出来る体制を整えている。又、ご家族とも情報を共有し健康管理を行っている。	医療連携体制を整えており、往診や訪問看護制度を利用している。職員は入居者の毎日の健康状態を把握し、家族とも情報を共有している。代表者が医師であるため、夜間急変時の対応も万全であり、本人・家族の安心に繋がっている。内科以外の診療科目の受診も家族の協力のもと行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の下、担当看護師による定期的訪問と情報の共有で日常的な健康管理を支援している。また常時、担当看護師へ報告、相談できる体制をとり、急変や体調不良時は早期に適切な対処が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、頻繁に面会を行い状態の把握やご本人の不安を少しでも取り除けるよう心掛けている。ご家族、医療機関との情報交換を蜜に行い、万全の体制で退院出来る様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、看取りについて事業所の方針を明文化し文章にして利用者本人、ご家族へ説明を行い同意を得ている。終末期の支援については本人ご家族の意向要望を確認しながら関係者全員で話し合いを行い同意の上で支援している。	今年度は3例の看取りがある。事業所では、利用開始時に終末期、看取りについての方針を説明し、同意を得ている。看取りに対する家族の意向は、その都度揺れ動くことを事業所側でも十分に理解し、入居者の状況の変化の都度、家族の意向や要望を確認し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時、緊急時の対応やAEDの使用方法や蘇生術等の説明や講義を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災管理者が消防計画書を作成し定期的に消防避難訓練を実施し、確実な避難誘導、通報が出来るようにしている。又、火災報通報装置設置により自治会会長の登録を行い、地域の協力が得られている。	毎月の自主避難訓練の他、年2回、消防署立会いの総合訓練において、避難訓練、通報訓練及び、自然災害についての講話を実施し、総評を受けている。通報装置に町内会長を登録し、非常時の協力体制を整えているが、地域住民の訓練への参加や消防団への協力の要請は、実現していない。	以前から地区消防団などに災害時の応援を呼びかけている段階であるが、実現していないため、継続的な要請が望まれる。また、訓練の様子を見学してもらおうよう地域住民への働きかけにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に頭に置き、失礼のない言葉や態度に留意している。個人情報に関する同意を得ている等、プライバシーの保護に努めている。	入居者の人格尊重を第一にしたケアの実践に取り組み、決して無理強いせず、本人の思いを大切にしている。写真掲載の同意を得ており、個人情報も事務所内に保管している。ただし、職員が日中、リビングにて介護の記録を行っており、来訪者から内容が見える状態である。	リビングにて介護記録を行なう際は、プライバシー保護の観点から、来訪者の目に触れないような配慮が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様の意志を尊重し発言し易い場面づくりを心掛け、傾聴し意志表示困難な方は表情等で自己決定しやすい言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかに1日の流れはあるが、本人の体調やペースに合わせて、本人の意志に添った支援に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に衣服を選んで頂いたり身だしなみには気配りを行っている。又、定期的に訪問美容を利用される等日常におしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生会等メニューも幅広く、利用者の希望に添った献立作りに心掛けている。配膳や後片付け等利用者、職員が協力して行っている。	ユニット毎に職員が調理している。七草がゆや冬至にはかぼちゃ等、季節感を大切にしている。「ランチ外出」として、入居者の希望を聞き取り、1名から2名での外食を実現している。さらに、屋外でのバーベキューやクリスマスケーキ作り等行事毎に工夫を凝らし、食事が楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の好みや体調に応じた食事量や食事形態の工夫をしている。又、摂取量のチェックを行い健康管理をしている。夜間帯もお茶の準備をする等、水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じた声かけ、見守り、一部介助など、本人の力に応じた口腔ケアの支援を行っている。又、週1回義歯の消毒洗浄を行い清潔保持に努めている。		

グループホームゆうしゅん（2Fユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、行動や仕草を察知し、トイレでの排泄が出来るよう支援している。又、極力、オムツの使用は控え排泄の自立支援に向けた対応を行っている。	日中は、トイレでの排泄を基本としている。排泄チェックシートを記録し、職員間で共有化しており、入居者毎の排泄のリズムを把握し、早めの誘導を行っている。排泄の自立を目標にしており、おむつやリハビリパンツから改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な日常運動や体を動かすレクリエーションを取り入れている。又、消化の良い食材を選定し、小まめな水分補給で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日設定はしているが、本人、ご家族からの要望がある場合はその時の状況に合わせた支援を行っている。	週2回の入浴を基本としているが、入居者の体調や要望に沿い、柔軟に対応している。入浴日以外は、清拭を行っている。菖蒲湯や入浴剤で入浴が楽しいものとなるよう工夫している。介護度が重い利用者も、浴槽に浸かることができるよう複数の職員で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調に合わせて活動して頂きゆっくり休養が取れる環境づくりに努めている。又、日常運動やレクリエーション活動で適度な疲労感を感じ夜間は、安眠確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに最新、過去の薬事表を保管して、常に全職員が内容を把握できるようにしている。又、飲み忘れや誤嚥等がないよう内服薬は、三重の確認体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年2回、外出行事やレクリエーション活動、ボランティアの方々に来て頂き楽しく過ごされることにより気分転換を図っている。又、利用者個々の経緯や得意分野を生かした共同生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前の申し出があれば状況をみて出来るだけ希望に添った外出が実現出来るよう支援している。	天気の良い日は、日光浴やホームの周辺への散歩を行っている。近隣の大型スーパーで衣類を購入したり、季節毎に桜、菖蒲、紅葉等の名所に出掛けている。今年より「ランチ外出」として入居者と職員が一人ずつ、外食して楽しむ支援も始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的な外出行事やご家族との外出時は個々で支払いをして頂く等、希望や能力に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はご家族に電話連絡を行っている。又、季節折々で葉書を書いて頂き職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に月々の季節に応じた装飾を行い、花を飾る等季節感を楽しんで頂き心落ち着く環境作りに努め、居心地よく生活できられるよう工夫している。	眼下に海を望む開放感のあるリビングは、全面カーペット敷きの床にテーブルと椅子が置かれ、入居者が思い思いに寛いでいる。壁には入居者と職員の共同作品が飾られ、季節を感じる事が出来る。廊下、トイレ、浴室、洗面所の水回りも掃除が行き届き、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テレビ、新聞、雑誌など設置しており気のあった利用者同士楽しく会話をされたり、思い思いに過ごせる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人やご家族と相談しながら使い慣れた家具等を持ち込んで頂いたり、写真や装飾品を飾って頂き今までと近い環境で居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、ベッドや布団、机、椅子、テレビ、仏壇等、自宅から馴染みの物を持参し、思い思いに配置している。転倒に備えカーペット敷きで、汚染した場合は、部分的に外し洗濯できるように工夫している。掃除は職員と一緒にいき、清潔で臭気も無く、個性溢れる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の心身状態に応じ環境改良を行い、全員が安全で出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホームゆうしゅん(1Fユニット)		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	平成28年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※2F分をご参照下さい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者全員が幸せに過ごせますように」という理念を日々意識して、利用者様やご家族様の意向を確認しながら毎日笑顔で過ごして頂けるように職員全体で努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し総会や清掃活動、地域主催の講演会など町内行事に参加している。又、事業所主催の行事に近くの保育園児やボランティアの訪問があり地域との交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会会長や民生委員様には運営推進会議に出席して頂き相互に問題提議し、支援の方法や状況によりアドバイス等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に会議を開催し施設の状況報告を行っている。質疑応答や意見交換を行い、意見・アドバイスを得てサービスの質の改善、向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回包括センターの担当者に参加して頂き助言、アドバイス等を頂いている。運営に関する相談は直接市の窓口に向くか市作成の質問票を利用している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修会に参加したり、内部勉強会を行い拘束のないケアを徹底し、入居者様が自由に行動出来る生活を提供出来るように職員全員で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部の勉強会に参加し、虐待防止について学び、内容を共有しながらやさしい語りかけ・優しい介護を心がけ虐待の無いケアに当たっている。		

グループホームゆうしゅん（1Fユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議のメンバーに行政書士の先生の参加があり、成年後見制度について話をし頂く機会もあり助言、アドバイスを頂戴している。状況によっては専門家への紹介へと反映出来るように協力体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者と家族を含めての説明を行い、事業者の方針や取り組みについて理解して頂き同意を得るようにしている。又契約改定時にも文書や口頭で都度説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が気軽にいつでも話をし頂ける雰囲気づくりと、日頃からの信頼関係の構築を心がけている。面会時には近況報告を行い、記録を開示し要望等を聞いている。意見や要望については職員全員で話し合い都度対応行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議等で機会に設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境については、基準確保が現状では一体で余裕がなくなかなか困難。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には、可能な際、出席を促し、発表していただく様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流に関しては、出来るだけ機会があれば参加を進めているが、実践はまだ充分ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談の機会を設け相談に応じ、事前に顔合わせをする事により安心して頂けるように心掛けている。ご本人の話を傾聴し、出来る事出来ない事を判断していくと共に新しい環境に慣れて頂けるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や思いをしっかりと傾聴し、今後の対応のあり方や方針について話し合い、不安を解消して頂けるようなサービスを提供する事で安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族との面談の場を持ち利用者、ご家族の状況、状態を確認し必要なサービスの内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意志を尊重し、言動に耳を傾け、共感し一緒に喜び楽しむように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月に1度は必ず記録開示を行い、生活状況の報告を行っている。又、年に1回家族会を企画し本人・ご家族・職員との交流の機会をもち信頼関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会、菩提寺のお坊さまの来訪や昔馴染みの理容店からの訪問等、継続して受けられるようご支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝、居間にて集団体操を実施したり、入居者様間で交流出来る機会を作り、自然とコミュニケーションがとれるよう配慮している。又、新しく入居された方があれば優しくお声かけをして頂く様お願いしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係性を大切に、ご家族様のご訪問、CDやお便り、お電話を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に意向の聞き取りを行っている。又、日常の言動、行動、表情から本人の思いをくみ取り、職員間及びご家族との情報交換を行いより良い方向性へと導いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に本人、ご家族様より情報収集を行い、入居後は本人の会話の中から新たな情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや月1回の職員会議で細かく情報交換を行い、日々の体調や言動、行動、表情の観察を行いサービス提供を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向や要望を確認し、毎月、サービス担当者会議を開催しモニタリングを実施している。職員全員で検討を行い、必要に応じて変更、修正を行い対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援記録を用い、毎日の申し送りや月1回の職員会議で情報を共有し実践に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その状況に応じて、ご本人の思いに添える様に努めている。入浴の時間や希望日など意向を尋ね、ご本人の満足に繋がるようなサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理美容室へ訪問の依頼を行いサービスを継続して受けられる様にご支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関への受診が出来られるように支援している。又、医療連携体制を整え、定期的な訪問や日々の相談も行い安心して生活して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、毎日の状態報告や定期的な訪問も毎週あり、相談・指示を受け適切な対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会へ出向き状態の把握に努めている。医療機関、家族との情報交換を行いながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族の面談を設け終末期の対応の仕方について聞き取りが出来ている。終末期医療のプロセスガイドラインを提示し説明してご家族の同意を得ている。医師、看護師との連携のもと支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時にAEDの使用方法や緊急時の対応について学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	月1回消防訓練を実施し避難誘導がスムーズに出来る様に備えている。消防署の立ち会いも年2回実施し、訓練内容のアドバイスも受けている。非常持ち出し品の整備も整え防災マニュアル(自然災害)も作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての敬いの気持ちを持ち、自尊心を傷つけない言葉遣い、又、お一人おひとりの人格を理解しその方に合った言葉かけ、対応を心がけている。プライバシー空間への配慮も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制的な押し付けはせず、何事もその都度説明を行いご本人の意思、意向を確認し自己決定して頂く様に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や活動など一日の流れはあるが、強要する事なく自由に、ご本人の意志、ご本人のペースで行動して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには特に気を配り、毎日気分良く快適にお過ごし頂く様に努めている。毎朝のメイクやおしゃれを楽しんで頂ける様個別での支援にも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみとされており、入居者の嗜好や旬の食材を取り入れて提供している。誕生日にはご自分でメニューを選択される方もあり希望に沿った食事でお祝いしている。又、月に1度趣を変え、お弁当食を導入し喜んで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人やご家族と共に職員が栄養管理指導を受けカロリー調整やバランスのとれた栄養確保が出来る様配慮したり、食事量や食事形態も個々に応じた対応を行っている。水分補給では自動販売機へ飲料水を買に行かれたり、随時ではレモンティーを提供、又日曜日にはコーヒータイムを設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、義歯の方には週に1度ポリドント洗浄を行っている。口腔ケア時には付き添いを行い、スポンジブラシを使用する等一人ひとりに合った支援を行い清潔保持に努めている。		

グループホームゆうしゅん（1Fユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用を極力減らし、トイレでの排泄支援を心がけている。排泄チェックを行い、行動、しぐさを察知し随時のトイレ誘導を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常運動促進、水分補給を心がけている。排泄状況の確認、記録を行い、状況を把握しトイレ誘導を実施し、自然な排便へと導いている。又、ヨーグルトやバナナ等の提供を行っている。利用者の中には自ら体操を行い排便促進に努められたり、牛乳を個人購入されている方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の回数や希望される時間を利用者へ確認し支援行っている。その日の体調や気分に合わせて、強要することなく臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息も、夜の就寝時間も自由に取られ、食事時間をずらして摂られたり、お部屋に提供したりと本人の体調や気分に合わせて、なるべく自由に生活して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表をすぐ見れる所へ作成している。内服薬の準備には数名の職員で再確認をして誤薬防止に努めている。処方変更時は職員全員が分かる様に申し送り伝達ノートで共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事や得意とされる事を理解し、作業や趣味活動を通しハリの生活、喜びのある生活が出来られるよう支援している。(例一つけものづくり等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事には外出・外食を計画して実施している。又、個々にも季節の花を見学に行くの公園へお連れするなど定期的実施している。ご家族様の同意があれば外出は自由であり、単独で交通機関を利用して外出されている方もありお出かけ時の見送り支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望もあり自己管理されている方や少額を持ち、毎日財布を取り出してはお金を数えられお金を所持することで安心されている感あり。買い物依頼については、対応し、購入物品によってはご家族と相談しながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はご家族や知人と自由に連絡が取れる支援を行っている。行事ではご家族へメッセージを依頼し行事の席でご披露させて頂き交流支援に努めることが出来た。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	”臭いのない環境づくり”をモットーに、衛生管理に気を配り居心地の良い住環境を整備する様努めている。又、玄関や居間にはお花を生けたり壁には季節感を感じて頂ける装飾を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎日使用される空間として不快感なくお過ごし頂けるテーブル設定等行っている。入居者同士で自由に、ゆっくり過ごせる時間を確保している。玄関先のベンチや居間のソファにてくつろがれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状態を把握し、安全に生活して頂ける環境を、又、ご家族の写真などを飾り安心出来る様お部屋づくりを工夫したりとご家族と相談しながら対応している。(例一手すりの設置、導線の確保、ベット⇒布団へ変更等)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して生活して頂ける様に居室やトイレ入口には各々の場所が認識出来る様ネームプレート等を設置している。又、利用者間でトラブルが生じた場合には、環境設定等生活面での見直し、検討を行い心身両面に於いて支障なく生活が継続出来る様支援している。		